

# 安心安全 元気でいきいき 暮らせる町

「セーフコミュニティ活動にご協力を」

もしも

大切な人が病気で倒れたら

そして「いのち」を落としたら……

”事前に予防することで「いのち」は守れる。”

この理念に基づいた

セーフコミュニティ活動で

ともに安心安全な町を目指しましょう。

町はセーフコミュニティ活動を本格的に始動します。

## セーフコミュニティ WHO認証取得を目指して

二月九日、町はWHO認証セーフコミュニティ活動の開始宣言と支援協力依頼のため、村井県知事を訪問しました。

席上、平澤町長は知事に対し「セーフコミュニティの理念は、自治体として目指す姿と一致する。子どもから高齢者まで健康で安心安全に住める理想郷づくりは箕輪町の目指すべき姿であるので、県としても全面的にバックアップして欲しい」と要請しました。

それに対し、村井知事は「県としても全面的に支援したい。箕輪町が認証されれば長野県の売りになる。是非成功させて欲しい」と応じていただきました。

セーフコミュニティ活動の起こりは、一九七〇年代にスウェーデンで医療費拡大防止の国策が効果を上げたことで、WHO（世界保健機関）がこれを評価し、同様の活動で世界基準を満たした取り組みをしている自治体に対して、WHOより世界的基準に基づく認証が与えられることとなったのがはじまりです。

セーフコミュニティとは、直訳すると「安全な地域」という意味ですが、事故やけがは偶然起こるのではなく、「**予防できる**」という考えのもと、行政や警察



村井知事（左）に要請する平澤町長（右）

をはじめ、学校、家庭、地域住民すべてが連携・協働して、健康で安心安全に暮らせるまちづくりを進める取り組みです。わかりやすく言えば「**転ばぬ先の杖**」といったところで、事故やケガを起さる前に防いでいこうという取り組みです。

またこの取り組みは、防犯や交通安全だけではなく、自殺や薬物中毒、病気を対象にしています。

セーフコミュニティの認証は、現在世界二十七カ国百七十七都市が取得しており、町は日本で四番目の認証取得を目指しています。

# 身近なことが セーフコミュニティ活動に つながっています

町では、これまでも安心して安全な住みよい町の実現に向け、さまざまな協働のまちづくりを行なっています。

たとえば、交通安全協会や交通少年団の皆さんの啓発活動により、町内の交通事故による死者ゼロは千日を超えました。また、地域ボランティアによる、児童の登下校時の「通学安全パトロール隊」や、消防団の火災予防活動もその一つです。

さらに町の特徴的な取り組みとして、保育園児や小学校一、二年生を対象とした、心身ともに健康な子どもを育成する「運動あそび」や、熟年層の総合的な健康をサポートする「みのわ健康アカデミー」などがあります。

セーフコミュニティはこれらの今までの活動に「データ分析と予防対策」という考えを加え、より強力に活動を推進します。

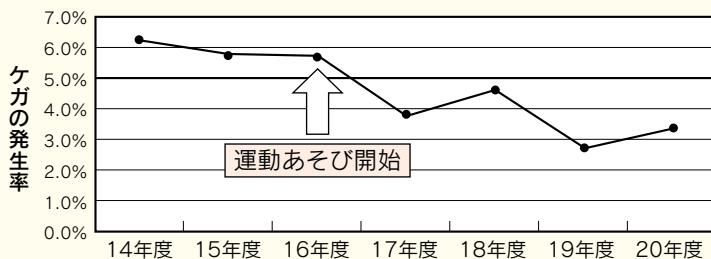
## セーフコミュニティは データの分析と予防に力を入れています

例えば子どものケガを例にとると…



最近の子どものケガを調査すると、全国的に手をつかずに顔から転ぶなど、大きなケガをする子どもが増えている傾向にあるようです。

セーフコミュニティに取り組むにあたり、町の保育園におけるケガの発生率を分析したところ、保育園児の数は毎年ほとんど変化していませんが、平成16年度を境にケガの発生率が少なくなっていることがわかりました。



平成16年度は町が保育園全園で「運動あそび」を始めた年であり、「運動あそび」の活動により、子どもたちの運動能力が向上し、大きなケガをしにくくなっていることがわかりました。



このようにデータ分析をすると今までわからなかった様々なことがわかってきます。そして分析に基づく予防活動が重要であることもわかります。

## これまで行ってきた セーフコミュニティ活動



心身ともに健康な子どもを育成する「運動あそび」



交通安全協会の「交通安全活動」



通学安全パトロール隊の「子どもを守るパトロール活動」



交通少年団の交通事故防止活動「レター作戦」



消防署による「AED講習会」



消防団の「火災予防活動」



長寿のまちづくり「健康アカデミー」

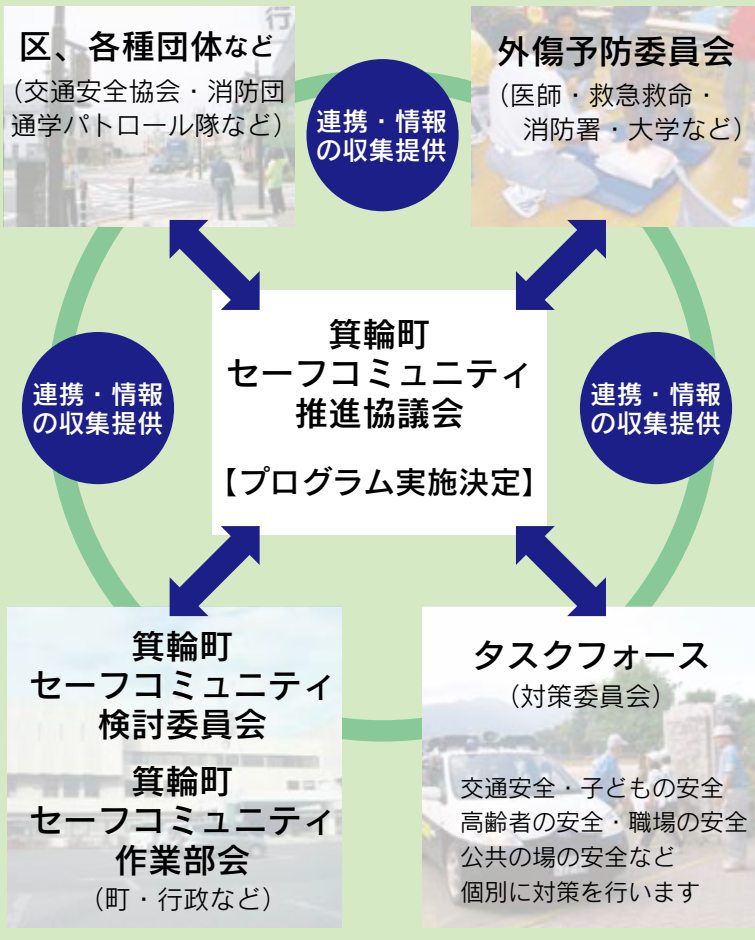


自殺予防の活動「命の大切さ、こころの健康づくり講演会」

## セーフコミュニティ活動で期待される効果

- ①国際的な評価を得ることで、安心安全な町の意識が一層高まり、町のイメージアップにつながる。
- ②具体的な危険要因とそれに対する対策の効果を客観的に把握できる。
- ③地域、ボランティア団体、行政などが情報を共有し、信頼と絆の強化がはかれる。
- ④事件・事故の予防活動により、外傷などが減少し、医療・介護の財源が削減できる。

### セーフコミュニティ推進体制



## セーフコミュニティ活動で期待される効果

このように、町ではすでに実施されている活動に、「いのちを守るための予防」を重視したセーフコミュニティ活動の理念を取り入れ、情報の共有や連携をさらに深めていきたいと考えます。

二月二十日には、町の安心安全なまちづくりに関わる七十以上の各団体が参加し、『箕輪町セーフコミュニティ

ティ推進協議会』が発足されました。ここでは、地域全体の情報の共有化を図りながら、個別な問題ごとの作業部会を設置し、データ分析や評価を行っています。

こうした取り組みにより、さまざまな分野で危険防止・予防のほか、経費やコストの削減などにもつながっていきます。

### セーフコミュニティ世界基準 6 指標

- ①コミュニティにおいて安全の向上を担う団体・組織などによる分野の垣根を越えたパートナーシップと協働、運営にもとづく基盤の整備がされている
- ②性別・年齢・あらゆる環境・状況をカバーした長期かつ持続可能なプログラムの実施
- ③ハイリスクのグループや環境を対象としたプログラム及び弱者グループの安全の向上を図るためのプログラムを実施する
- ④外傷の頻度や原因などを記録するプログラムがある
- ⑤プログラム、プロセス、変化による影響をアセスメントするための評価指標がある
- ⑥国際・国内のセーフコミュニティネットワークへの継続的な参加

また近年では、自殺も全国的に問題になり、自殺防止にも積極的に取り組む必要があります。セーフコミュニティ活動は、大切な「いのち」を守り、より安心で安全な町を築いていくための第一歩です。

WHO 認証取得には、この活動に対し二年半ほどの取り組み期間が必要です。また、県内でも箕輪町が初のモデル的な取り組みともいえます。住民の皆さまのご理解とご協力をお願いします。